

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

膵癌腹膜転移に対する有効な治療法を検討するための多施設共同後ろ向き研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科

【研究責任者】 坂元 克考（肝胆膵乳腺外科 講師）

【研究代表者】 関西医科大学 外科学講座 里井壯平

【研究の目的】

これまでに我々は、膵癌腹膜転移患者に対して臨床試験を通じて、全身化学療法に加えて腹腔内投与併用療法を導入し、その治療効果を評価してきました。特にエスワンとパクリタキセルの経静脈・腹腔内投与併用療法の多施設共同試験において、奏効率 36%、疾患制御率 82%と比較的良好な成績を報告しております。一方、近年、遠隔転移膵癌の治療に新たなレジメンが導入され、その治療成績が改善してきたことが報告されています。しかし、膵癌腹膜転移に対する腹腔内治療と新規抗癌剤を含んだ全身化学療法（新規化学療法）の治療効果を比較した研究はありません。そこで、腹腔内投与併用療法の有用性を新規化学療法の治療成績と比較して、検討することとしました。

【研究の方法】

（1） 対象となる患者さん

2012年11月1日から2019年12月31日までの間に診断された膵癌腹膜転移の患者さん。

（2） 利用させて頂く情報

調査項目は、年齢、性別、診断名、身長、体重、既往歴、血液検査所見、腫瘍径、腫瘍マーカー値などのほかに、治療経過情報、生存期間、手術関

連情報、周術期情報など

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータのうち、患者さんが直接特定できる情報を除いた電子ファイルを関西医科大学外科学講座に送ります。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて研究代表施設に送付します。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科 坂元克考

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科 坂元克考

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5327